

パネリスト講演：個人薬局の後発医薬品への取り組み 85パーセント達成の問題点

一般社団法人足立区薬剤師会専務理事 平石裕

私は個人薬局の後発医薬品の取り組み、85%達成の問題点という内容でお話しさせていただきます。21年前に独立して足立区2店舗と新宿区1店舗で経営しております。

調剤報酬が4月に改定され、かなり薬局を取り巻く環境が変わりました。例えば、私の薬局の近隣では大手調剤チェーン店3店舗が4月に閉店しました。その理由をご存知のように今回いろいろな改定がありましたが、大手に厳しく個人店はそれほどでなかったと思います。うまく国策に乗っている個人店は調剤報酬という面では横ばいになったと思いますが、大手は基本料・地域支援体制加算ともに厳しい内容でした。今年3月、ある組織の厚労省報酬改定説明会に参加しましたが、説明会終了後講師に「前回も今回も大手に厳しく、ぶれなく個人店を守っていただきありがとうございます」と伝えたところ、講師が「いやあ、厳しいですよ。プレッシャーだらけで。次回はもう今回みたいなことは無理です」と言われていました。

私がいる薬局は、薬剤師4人と医療事務兼登録販売者と栄養士の計7名で運営しています。経営方針としては、処方箋、在宅、健康相談、ジェネリック医薬品、この四つを掲げております。調剤以外のOTCを利用した健康相談(未病・予防)と、医療機関との連携による受診勧奨も大切に考えています。また薬局はICTの充実が強く求められており、処方箋受付も薬局に持参していただく以外に、例えばEPARKさんとか電子お薬手帳を利用した写メによる送信受付。またスライド右側に見える処方箋ポストは、閉局後に利用していただき、忙しいサラリーマンの方々に好評です。医療用医薬品の在庫は約2,100品目。そのうちジェネリック医薬品は約600品目、OTCは1,000品目ぐらいで、受付医療機関数は約260です。処方箋がなくても気軽に入って来られる昔ながらの「よろず屋的感覚の薬局」、何でも「気軽に相談できる」薬局経営が目標です。3年前「目の前」に巨大な大手ドラッグチェーンが進出してきました。調剤室からも大きく輝くネオンが見えて、当初は不安も大きく大変でしたが、1年経ち2年経ち不安も解消して個人店の良さを出しながら経営しています。やはり地元に基づいて一人一人を大切に作る個人店は住民に求められていることを実感しています。

さて、東京都の後発品データですが、細かい数字と最新の数字につきましては皆様にお配りしております。足立区は後発品使用率が数量ベースでこの1年間都内23区でトップですが、金額ベースですと5番目か6番目になります。これは地域性もあります。足立区には大学病院がなく、3~4年後には女子医大の東医療センターが荒川区から移転が決まっていますが、このような区では薬価が安い後発品はたくさん使われていますが、高額なジェネリックの処方箋は少ないということです。

また、都内で今年3月まで後発品体制加算を届けていた薬局数は3,700軒でしたが、4月には2,363軒に減少しております。マイナス1,400軒。57%の薬局が3月まで取得しておりましたが、4月は36%に落ちております。ちなみに、とある大手全国チェーン調剤薬局は、「38%が後発品体制加算3を取得した」と先週発表しています。すごいです。この数字はあり得ないと思います。

また門前薬局が狙い撃ちされていて、とにかく厳しい状況です。私の後輩が12薬局を運営していて、そのうち数薬局が月2,000枚以上の門前薬局です。支払いができないと嘆いております。なぜかと申しますと、集中率が85%以上ですと基本料1以外になり、地域支援体制加算35点の算定が無理で後発品も厳しいとなりますと、合計で80

数点が減額になるわけです。85点×2,500枚で月間200万円以上の減額になります。薬剤師3~4人分ぐらいの給与でしょうか。本当に厳しい変革です。

	後発医薬品調剤体制加算 (厚生局資料)					医薬品市場分析 29年4月~3月 (月均) E:千円					
	調剤 薬局数	加算1	加算2	合計	構成比 公費 月	薬局 総市場	市場 増加率	薬局 後発品市場	市場 増加率	後発品 構成比	
全国	58,945	16,431	23,074	39,505	67.0%	466,460,723	0.4	70,087,018	17.3	15.0%	
北海道	2,273	635	1,016	1,651	72.6%	3月	24,005,632	▲0.4	3,774,670	14.6	15.7%
青森	605	172	263	435	71.9%	2月	5,836,757	0.7	833,129	23.2	14.3%
岩手	582	133	341	474	81.4%	2月	5,174,922	0.8	865,018	13.9	16.7%
宮城	1,135	293	554	847	74.6%	2月	8,917,529	0.2	1,318,277	13.2	14.8%
秋田	527	161	210	371	70.4%	2月	5,192,481	▲1.3	859,993	14.7	16.6%
山形	571	125	338	463	81.1%	2月	4,204,726	▲0.6	648,566	14.8	15.4%
福島	877	211	379	590	67.3%	2月	7,478,119	▲1.6	1,106,826	19.2	14.8%
茨城	1,257	337	512	849	67.5%	2月	10,867,441	▲0.5	1,509,950	17.0	13.9%
栃木	846	233	348	581	68.7%	2月	6,432,916	1.1	969,647	19.9	15.1%
群馬	875	202	463	665	76.0%	2月	6,062,472	▲0.2	872,186	18.7	14.4%
埼玉	2,781	748	1,264	2,012	72.3%	2月	24,796,325	2.1	3,994,971	20.6	16.1%
千葉	2,410	735	914	1,649	68.4%	2月	21,158,984	0.8	3,059,575	19.0	14.5%
東京	6,555	2,005	1,731	3,736	57.0%	3月	55,958,788	1.2	7,875,244	19.0	14.1%
神奈川	3,812	1,250	1,290	2,540	66.6%	2月	33,853,275	0.0	5,133,738	16.0	15.2%
新潟	1,108	263	607	870	78.5%	2月	8,221,722	▲1.3	1,363,719	14.4	16.6%
富山	434	141	221	362	83.4%	3月	3,448,073	▲0.4	564,117	17.8	16.4%
石川	514	159	238	397	77.2%	3月	4,093,342	▲0.6	641,537	20.8	15.7%
福井	278	79	137	216	77.7%	3月	2,248,421	1.1	347,821	23.2	15.5%
山梨	442	122	105	227	51.4%	2月	3,261,038	0.0	459,708	18.1	14.1%
長野	953	315	438	753	79.0%	2月	8,001,569	0.3	1,414,203	13.1	17.7%
岐阜	1,001	274	372	646	64.5%	3月	6,889,081	1.4	1,048,314	17.0	15.2%
静岡	1,767	397	889	1,286	72.8%	3月	12,896,920	▲0.7	2,112,422	13.3	16.4%
愛知	3,215	840	1,459	2,299	71.5%	3月	23,437,247	1.4	3,465,174	18.7	14.8%
三重	1,767	223	370	593	33.6%	3月	5,673,766	0.6	853,581	18.1	15.0%
滋賀	572	227	204	431	75.3%	3月	4,759,027	2.0	758,976	22.5	15.9%
京都	1,026	340	303	643	62.7%	3月	8,846,871	0.2	1,140,687	20.0	12.9%
大阪	4,083	1,329	1,095	2,424	59.4%	3月	32,798,585	1.1	4,501,796	18.4	13.7%
兵庫	2,590	777	960	1,737	67.1%	3月	20,540,125	0.0	2,874,723	15.2	14.0%
奈良	525	220	130	350	66.7%	3月	3,817,569	3.8	597,330	16.9	15.6%
和歌山	464	144	116	260	56.0%	3月	3,239,716	2.2	449,321	22.8	13.9%
鳥取	276	62	139	201	72.8%	2月	2,118,468	▲2.6	312,283	17.2	14.7%
島根	325	72	191	263	80.9%	2月	2,747,537	1.8	479,904	14.3	17.5%
岡山	799	221	367	588	73.6%	2月	6,047,985	0.7	1,070,244	24.6	17.7%
広島	1,568	425	532	957	61.0%	2月	11,052,667	▲0.2	1,598,127	13.8	14.5%
山口	783	209	361	570	72.8%	2月	5,575,821	▲1.2	955,114	21.1	17.1%
徳島	383	80	89	169	44.1%	3月	2,846,394	▲1.3	364,599	18.5	12.8%
香川	515	134	199	333	64.7%	3月	3,862,265	0.0	428,564	12.1	11.1%
愛媛	582	147	255	402	69.1%	3月	4,885,364	1.1	739,384	19.6	15.1%
高知	381	112	91	203	53.3%	3月	3,098,265	▲0.5	383,879	16.1	12.4%
福岡	2,890	756	1,203	1,959	67.8%	3月	18,824,423	0.6	2,998,361	17.2	15.9%
佐賀	509	120	255	375	73.7%	3月	3,202,972	▲3.7	475,437	15.9	14.8%
長崎	724	203	284	487	67.3%	3月	5,481,302	0.3	819,114	15.4	14.9%
熊本	821	184	433	617	75.2%	3月	5,929,887	▲0.6	913,072	10.6	15.4%
大分	558	174	206	380	68.1%	3月	4,568,398	▲1.9	690,740	14.2	15.1%
宮崎	569	118	343	461	81.0%	3月	4,055,092	0.2	681,649	19.5	16.8%
鹿児島	878	187	557	744	84.7%	3月	5,621,079	1.2	1,007,837	18.0	17.9%
沖縄	539	77	411	488	90.5%	3月	4,429,362	4.1	753,488	15.8	17.0%

続きまして、厚生局に4月に提出した様式87というジェネリックに関する資料です。1月、2月、3月。これは私の薬局ですけれども、1月81.9%、2月83.4%、3月85.25%。3か月間平均で83.58%まで追い上げました。予定では5月末で85%以上にして体制加算3を取得と考えていましたが、この1%が非常に厳しい。もうにっちもさっちもいかない状況です。3月はどうしてもこんなに伸びたかと申しますと、花粉症の影響でタリオンの後発品ベポタスチンの処方が増えました。タリオンが、確か3月には分母には入っていない計算だった、それで数字が高くなった。そんな感じなんです。

様式 87

「後発医薬品調剤体制加算の施設基準に係る届出書添付書類」
及び「調剤基本料の注6に係る報告書」

届出に係る後発医薬品調剤体制加算の区分 (いずれかに○を付す)	<input type="checkbox"/> 後発医薬品調剤体制加算1 (カットオフ値50%以上かつ新指標 75%以上) <input type="checkbox"/> 後発医薬品調剤体制加算2 (カットオフ値50%以上かつ新指標 80%以上) <input type="checkbox"/> 後発医薬品調剤体制加算3 (カットオフ値50%以上かつ新指標 85%以上)
調剤基本料の「注6」(後発医薬品調剤割合が著しく低い保険薬局)への該当性 (該当する場合に○を付す)	<input type="checkbox"/> 該当しない(新指標 20%超) <input type="checkbox"/> 該当する(新指標 20%以下) → <input type="checkbox"/> 処方箋の受付状況を踏まえやむを得ないものに該当

全医薬品の規格単位数量及び後発医薬品の規格単位数量並びにその割合				
期 間 (届出時の直近3か月間：1か月ごと及び3か月間の合計)	平成30年02月	平成30年03月	平成30年04月	平成30年02月～平成30年04月 (直近3か月間の合計)
全医薬品の規格単位数量 (①)	213,261.45	238,782.49	225,826.16	677,870.1
後発医薬品あり先発医薬品及び後発医薬品の規格単位数量 (②)	145,310.54	165,933.26	156,438.2	467,681.99
後発医薬品の規格単位数量 (③)	120,958.88	141,462.1	132,131	394,551.97
カットオフ値の割合 (②/①) (%)	68.13	69.49	69.27	68.99
新指標の割合 (③/②) (%)	83.24	85.25	84.46	84.36

ジェネリック使用率が23区で最下位なのは新宿区です。私の新宿区四谷店は大変苦勞しております、何とか体制加算1を取ることができましたが、75%前後でうろちょろしている状況です。変更がどうして難しいかと申しますと、処方箋上で変更不可とされるのが一番厳しいわけです。これはある病院の処方箋で、一つだけ「×」がついています(クロピドグレル錠)。ほかは一般名処方、これだけがジェネリックのSANIK。AG製剤です。抗血栓薬ですから、このドクターは抗血栓剤だけはAGのお考えです。続きましては開業医さんの皮膚科の処方箋です。皮膚科医は外用製剤に非常にこだわっております。ヒルドイドローションとジェネリックとでは乳液と化粧水みたいな違いで、保湿作用とか使用感が全く違うのでこれはわかるのですが、すべて「×」の処方です。次のクリニックは内科ですが、先発のみにエビスタだめ、エディロール、ベタニスだめ。メチコバルはジェネリックですから、ここには「×」がない。そしてど

ういわけか最後の、この処方の中で一番こだわるべき降圧剤のみが一般名処方、どう見ても加算 2 点取りたいというような内容だといつも感じています。

次にジェネリック医薬品の品質です。これはレーザー印字の変色の問題です。メーカー名は公表したくないのでちらっとだけお見せしますが、右が本物で左が変色したものです。これについてメーカーは品質に影響はないと言ってきました。一包化することも多い薬剤で患者の不安は強く、採用メーカーを変更しました。どうしてレーザー印字が変色したかは、要するに湿度と温度の変化の影響だそうです。

安定供給につきましては、今年に入りましてフェノフィブラート。天下の武田テバさんの 1 社販売ですが AG ではないですね。市場規模が小さいということで 1 社販売だったみたいですが、市場予測の誤りから 2 カ月間で市場の 50% までジェネリックに変更が進み、供給が止まりました。いまだに供給されていない。うちなどは納入価が本当に高いうえに、いまだにたまにしか入ってこない。それも 100 錠 1 個とか、そんな供給体制です。ですから例えばフェノフィブラートを大量に使っているところでは、後発品体制加算を申請していても、入って来ない影響でゼロコンマ何%下がってしまい、取り下げをしなければならない。なおかつ患者様には先発品への変更の説明をする。病院であればレセプトコンピューターのシステムを変えるなど、とんでもない影響を与えているのです。どうしてこんな市場予測をしているのかなという信じられない例が今年ありました。

情報提供ということでは、ジェネリックメーカー間の格差が大きいのは事実ですが、必要性をあまり感じていません。先発品と後発品の添付文書の内容が違うというのが、どう考えてもおかしいと思っております。

今後の個人薬局経営ということでは、国が薬局ビジョンを 3 年前に掲げて、かかりつけ薬剤師制度の加算制度が始まりました。健康サポート、これは現在全国で 900 店舗、東京では 90 店舗が申請しております。健康サポートは点数制度ではございませんけれども、地域包括ケアシステムのプレーヤー薬局は、健康サポート薬局だと考えます。申請薬局は徐々に増えています、中学校区に 1 薬局ですから、今後の申請はどんどん厳しくなることも考えられます。薬価差がなくなり、調剤料も上がらなくなり、国は「対物から対人」へと言っています。後発医薬品体制加算とか薬価差に依存しない経営へのシフトはかなり難しいです。

今後の個人薬局経営について

- ・患者の為の薬局ビジョン→かかりつけ薬局→健康サポート薬局
- ・「物から人へ」
- ・後発医薬品体制加算・薬価差に依存しない経営のシフト
- ・薬局薬剤師として、地域包括ケアシステムへの積極的な取り組み
- ・医療連携・医介連携・生活連携→地域の情報の共有、研修の充実が大切

それではどのようにするか？一番はやはり在宅医療だと思います。在宅医療をやっている薬局数は、介護保険で2万軒を超えました。医療保険では6,000軒を超したと思います。5万9,000軒の薬局のうち2万7,000軒ぐらいは現在取り組んでいます、1薬局月に27回ぐらい保険請求になっています。いつの間にかすごい数字になっています。まだ取り組めなくて「どうしたらいい？」という薬局も多いのですが、地域包括ケアシステムが2025年までに完成されるわけですから、それに組み込まなければ薬局経営は無理です。現在、医介連携システムの構築が、各地区の医師会と行政多職種で取り組まれています、医療側と介護側の中心、クッション役として薬剤師への期待も大きくなっています。